

オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「公武合体の犠牲に 皇女和宮」

日時 : 2023年3月14日

講師 : 林和清先生

当日参加受講生: 17名(在籍30名) 再視聴あり

生い立ち

弘化3年(1846)仁孝天皇第八皇女として公家橋本家に生まれ、仁孝天皇崩御後は橋本家で養育されます。(右:和宮)

公武合体政策

安政5年(1858)6月27日、幕府による日米修好通商条約の無断調印に続き7月11日日露修好通商条約、7月18日に日英修好通商条約が調印されます。8月孝明天皇は抗議の意をこめて譲位を示され、内覧関白・九条尚忠欠席の朝議で正式ではない勅書が作成され水戸藩、次いで幕府へ送られます。(戊午の密勅)幕府は勅書の内容を秘匿し、孝明天皇には「公武一和の立場より将来、鎖国に戻る」と説明します。(心中氷解の沙汰)

降嫁

和宮が降嫁すれば公武一和に役立つと幕府側から発案されますが、有栖川宮熾仁親王との婚約が決まっており、孝明天皇は一旦その内願を却下します。が、幕府が「10か年以内の鎖国体制への復帰」と奉答したことで降嫁を決断します。和宮は内親王宣下を受け、諱・新子を賜り文久元年(1861)江戸の大奥へ出発します。降嫁の際に読まれた歌: 惜しまぬ君と民とのためならば 身は武蔵野の露と消ゆとも

徳川14代将軍家茂

和宮降嫁の2年後、家茂は文久3年(1863)3千人を率いて299年振りとなる上洛を行い、義兄・孝明天皇に攘夷を約束します。家茂は側室を置かず、和宮を生涯の伴侶とし、夫婦仲は良好であったようです。禁門の変ののち、長州藩内の尊攘派が再び政権を握ったため、家茂は自ら指揮を執って慶応元年(1865)5月長州征伐に向かいますが、勅許を待つ大坂で体調を崩し7月20日薨去します。(満20歳)凱旋の土産にと和宮から所望された西陣織が残され、「空蟬の袈裟」として増上寺に奉納されています。

和宮の歌: 空蟬の唐織り衣なにかせん 綾も錦も君ありてこそ

家茂亡き後



7月25日家茂の訃報が江戸に届き、12月9日和宮は落飾し号を静寛院宮と改めます。12月25日孝明天皇が崩御し、和宮は1年余りの間に母・夫・兄を失うことになりました。慶応3年(1867)甥にあたる明治天皇が踐祚します。姑・天璋院(篤姫)と和宮は徳川家の存続と寛大な処分を願う書状を送り、朝廷は徳川慶喜の助命と徳川家存続を決定します。それに対し和宮は御礼文も書いています。徳川家の処分終了後、上洛を希望し京都へ転居。明治3年(1870)東京に戻り麻布で明治天皇の伯母として厚遇

されますが、明治10年(1877)脚気の悪化で32歳の若さで亡くなり、家茂と共に増上寺に葬られています。「和宮の遺体には左手の手首から先が無かった」「和宮は替玉？」など謎が残されています。担当: 口村

